



No. **18**
10. February, 2009

日本ホスピス緩和ケア協会

NEWSLETTER ニューズレター

Hospice Palliative Care Japan

日本ホスピス緩和ケア協会事務局

〒259-0151 神奈川県足柄上郡中井町井ノ口1000-1 ピースハウス病院内

TEL 0465-80-1381 FAX 0465-80-1382

Website>><http://www.hpcj.org/> E-mail>>info@hpcj.org

理事長挨拶



「新春緩和ケア随想」

日本ホスピス緩和ケア協会
理事長 山崎 章郎

緩和ケアが、生命を脅かされる疾患に直面した、患者さんやご家族のQOLを改善するためのアプローチとして、疾患の早い時期から必要なケアであるとしたWHOの定義は、緩和ケア＝全人的ケアの観点から言えば、適切な定義であることに間違いはありません。

いわゆる全人的苦痛は死が近いから生じる場合もありますが、死とは関係なしに、その疾患に罹患することにより、それまでの自分らしさや、その自分らしさを保っていた日常生活が崩壊に瀕し、生きる意味を見失ってしまいそうになるために生じることも少なくないからです。

症状コントロールなどは当たり前のことにすれば、緩和ケアを構成するケアの中で、最も重要なケアが、そのような生きる意味を見失ってしまうような状況に直面している患者さんやご家族に対するケア、すなわちスピリチュアルケアであることに異論はないだろうと思います。スピリチュアルケアが適切になされれば、少なからぬ患者さんにとって、どのような状況の中でも（たとえ死ぬ間際であっても）、死ぬことも含めた今を生きること、を肯定することが可能になるからです。

ところで、ターミナルケアという表現がまだ主流のところ、関連する研究会、学会、あるいは書籍などでケアを提供する側が「患者は死を受容している」とか「死を受容していない」というような表現を使っていたことがあります。その頃は、今ほどスピリチュアルペ

インやそのケアの重要さが行きわたっていなかった頃で、避けられぬ死をいかに受け止めていただくか、が課題の一つでもあったからです。しかし、ホスピス緩和ケアの経験が積み重ねられるほどに、ケアを提供する側が使用してきた「死の受容」という言葉は、実は、そのような場面でのケアの展開があまり見えなかった頃の、ケアを提供する側の未熟さ、あるいは「あなた死ぬ人、私残る人」というケア提供者側の驕りから生じた言葉だったのではないかと、今、思っています。

最近の私は、患者さんが「死を受容しているかどうか」に大きな関心はありません。私の関心は、どのような場面であっても、その時々患者さんやご家族のニーズ（死をテーマにした事柄も含め）に、きちんと応えられているかどうか、そのことのためにチームはうまく機能しているかどうか、なのです。

さて、がん対策基本法の施行に伴い、現在関係者の多大な努力の下に、緩和ケアに関連する研修会が全国各地で展開されています。がんのように生命を脅かす疾患の治療中から、全人的ケアである緩和ケアが提供されることは理に適っています。緩和ケアが正しい意味で、がん治療医や在宅医も含め、多くの医療者に理解され、適切な緩和ケアが患者さんやご家族に提供されることを願うものです。

その意味でも、緩和ケアを提供している事業者を中心とした団体である当協会は、利用者に対する会員のケアの質の担保、そのケアの質の評価、会員も含めた関係者に対する専門的な教育、研修の提供、あるいは緩和ケアの在り方を正しく利用者や国民に知っていただくことなど、重要な役割を担っております。

21世紀になっても、世界中で果てしなく続く流血、餓え、貧困、格差など従来の世界を構築してきた仕組みが混迷している状況の中で、全人的ケアである緩和ケアは、人類が歩むべき道を照らす灯台になり得るものと信じて、皆様と共に直面する課題に取り組んでいければと考えています。本年もよろしくお願ひいたします。

2009年度年次大会のご案内

日 時：2009年7月18日（土）・19日（日）

会 場：広島国際会議場（〒730-0811広島市中区中島町1-5）

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/icch/>

大会長：本家 好文（広島緩和ケア支援センター センター長）



プログラム[予定] ※詳細は4月上旬案内予定

7月18日（土） 10:00-17:30

- ◆総会
- ◆委員会活動報告と意見交換
- ◆大会長挨拶
- ◆特別講演
「日本ホスピス緩和ケア協会へ期待すること」
前田光哉（厚生労働省健康局総務課がん対策推進室長）
- ◆シンポジウム
「ホスピス緩和ケアの質の評価と質の向上を目指して」
 - 1) なぜケアの質を評価することが必要か
 - 2) ホスピス緩和ケア評価指針（病棟版）による評価の結果について—インターネット調査から見えてくるもの—
 - 3) 遺族によるケアの質の評価とこれからの課題—J-HOPE研究から見えてくるもの—
 - 4) 緩和ケアチームの基準と質の評価について—ホスピス緩和ケアの連携の視点から—
 - 5) 全体討論
- ◆分科会
「質の評価と向上に関するシンポジウムを受けて」
 - 1) 緩和ケアチーム：基準とコンサルテーションの質の評価
 - 2) 在宅ホスピス緩和ケア：基準とケアの質の評価
 - 3) 緩和ケア病棟：基準と評価、そして改善
 - 4) 緩和ケア病棟と緩和ケアチームの連携
：地域ホスピス緩和ケアネットワークの視点
- ◆懇親会（18：00-20：00）

7月19日（日） 9：00 - 15：00

- ◆全体会
「ホスピス緩和ケアの現状と今後の協会の役割」
 - 1) 前日午後の分科会報告
 - 2) 今後の協会の役割について
 - 3) 挨拶：2009年度大会長／2010年度大会長
- ◆教育プログラムPart I
講演—基本を学ぶ—
 - 1) スピリチュアルケア
 - 2) 家族のケア
 - 3) 臨終時のケア（各自一つのテーマを選択）
- ◆教育プログラムPart II
パネルディスカッション—事例を通して学ぶ—

年次大会大会長挨拶



2009年度年次大会大会長
本家 好文

2009年度の日本ホスピス緩和ケア協会年次大会のお世話をするにあたって、ご挨拶させていただきます。

2008年を象徴する漢字は「変」でした。アメリカ大統領選挙報道でも「Change OBAMA」のプラカードを頻繁に目にしました。年度初めの好景気は、秋口から急速に悪化して、今や地球規模の大不況とともに状況が一変してしまいました。注目されていた「医療崩壊」の嵐も、世の中の大不況のなかで影が薄くなっています。

緩和ケアを取り巻く状況も、ここ数年の間に、がん対策基本法の制定、がん対策推進計画の策定、がん診療連携拠点病院の整備、在宅療養支援診療所制度の発足、緩和ケア病棟承認基準・緩和ケアチーム診療加算制度の改訂といった大きな変化を遂げています。

専門職の育成も、がん専門看護師や緩和ケア認定看護師といった看護専門職の数が増加し、新たに緩和薬物療法認定薬剤師制度が始まり、2010年度には緩和医療専門医制度が始まろうとしています。

制度整備や人材育成が進み、それらを有効に活用していくためのネットワーク作りも全国各地ではじまっています。こうした様々な動きや変化とともに、国民に対する緩和ケア啓発活動である「Orange Balloon Project」の推進、また、当協会が2006年度から進めている「ホスピス緩和ケア週間」の活動などによって、緩和ケアは医療者だけでなく、一般国民にも浸透はじめています。

認知度の広がりとともに「緩和ケアの質」の維持向上が重要な課題と考え、2009年度年次大会では「ホスピス緩和ケアの質の向上をめざして」をテーマとして開催することにしました。これまでの年次大会は、せっかく多忙な時間を割いて全国から参加しても、土曜

日午後と日曜日午前という限られた時間で開催されてきました。今回は、地域によっては前泊が必要になるかも知れませんが、初日の午前中から開催し、二日目午後にもプログラムを入れることにしました。昨年までより時間が長くなりますが、より充実した内容で開催できていると思っています。

また、懇親会は会員相互の情報交換や懇談が十分できるように、出し物は極力控えるように計画しています。一昨年の長野、昨年の仙台と、大会は台風や地震に遭遇してきました。幸い広島は天災の少ない地域ですので、そういった心配も少ないのではないかと考えています。7月には皆様と広島でお会いできるのを楽しみにしています。



2008年度ホスピス 緩和ケア週間開催報告

日本ホスピス緩和ケア協会では2006年度より「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice & Palliative Care Day)」を最終日とした一週間 (2008年度は10月5日～11日) を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示及びセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの普及啓発活動に取り組んでいます。

今年度は、厚生労働省が2007年度より日本緩和医療学会に委託している「緩和ケア普及啓発事業」(オレンジバレーンプロジェクトとして活動) に、日本死の臨床研究会、日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本がん看護学会と共に参画することとなり、当協会はホスピス緩和ケア週間を通して事業に協力いたしました。

また、当協会では、これまで会員施設を中心にこの活動に取り組んでまいりましたが、今年度はホスピス緩和ケア週間のご案内を、全国のがん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員の皆様にもお送りし、ご協力をお願いいたしました。

その結果、前年度の倍以上となる80もの企画をお寄せいただき、一般市民、医療関係者など約8449名の参加がありました。

関連企画の開催地と 当日の様子



▲緩和ケア病棟見学会
[黒木記念病院/大分県]



▲街頭でのチラシ・バルーン配布
[嶋田病院/福岡県]



●：企画開催地



▲街頭相談コーナーの開設
[京都ホスピス緩和ケア推進委員会※]



▲パネル展示
[岡山県済生会総合病院]



◀リレー・フォー・ライフ
[高知緩和ケア協会]

※京都府内の緩和ケア病棟を持つ病院 (薬師山病院・日本バプテスト病院) と、緩和ケアを行う一般病院 (音羽記念病院)、診療所 (あそか第2診療所) の有志が運営する委員会

[当日の様子]



◀ 市民公開シンポジウム
[日光記念病院/北海道]

医療従事者対象セミナー ▶
[十和田市立中央病院
/青森県]



◀ 病院ロビーでの
コンサート
[岐阜市民病院/岐阜県]

イベントボランティア ▶
による合唱
[国保中央病院/奈良県]



企画内容

①一般向けの講演会・フォーラム	35
②医療従事者向けのセミナー・研究会	10
③ロビー・お茶会等でのコンサート	19
④ホスピス緩和ケア関連のパネル展示	13
⑤緩和ケア相談コーナーの設置	11
⑥チラシ・オレンジバルーンの配布	10
⑦緩和ケア病棟見学会	9
⑧音楽療法・マッサージ等の体験	6
⑨緩和ケアに関するDVDの上映	5
⑩遺族会・他病棟との職員懇親会等	4

合計 122

※1つの登録企画内で複数の企画開催有

地域別企画登録状況

北海道	5企画	東北	4企画
関東甲信越	20企画	東海北陸	14企画
近畿	10企画	中国	8企画
四国	6企画	九州	13企画
		合計	80企画

企画参加施設種別

協会会員 58施設 / 会員以外 22施設

[内訳]

★協会会員	ホスピス緩和ケア病棟	42
	緩和ケアチーム	1
	一般病院	5
	診療所	5
	準会員(法人/個人)	5
★がん診療連携拠点病院に関して		
	協会会員	13
	非会員	19

参加者内訳

一般市民・患者・家族・学生・県および市役所職員・医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・チャプレン・ケアマネジャー・栄養士・音楽療法士・理学療法士・臨床心理士・事務員・ボランティア 他

合計：8449名

(1/10現在未報告の企画2件)

2009年度世界ホスピス緩和ケアデー & ホスピス緩和ケア週間



2009年度の「世界ホスピス緩和ケアデー」は10月10日(土)で、隔年に開催される

Voices for Hospicesの運動と重なる年となります。「ホスピス緩和ケア週間」は、世界ホスピス緩和ケアデーを最終日とした10月4日(日)～10月10日(土)の期間となります。

詳細につきましては後日ご連絡いたしますが、皆様には引き続き「ホスピス緩和ケア週間」を通したホスピス緩和ケアの啓発、普及活動への取り組みをお願い申し上げます。

第4回理事会報告

2008年12月6日(土)、第4回理事会が開催されました。以下に主な内容をご報告いたします。

会員状況

2008年7月以降、新入会、また、緩和ケア病棟および緩和ケア診療加算届出受理の報告を受けて、2008年11月15日現在の会員状況は以下の通り。

- 正会員：緩和ケア病棟入院料届出受理192施設(+8)
 緩和ケア診療加算届出受理19施設(+1)
 一般病院59施設(+15)
 診療所30施設(+5)
- 準会員：施設・団体18施設(+1)
 個人33名(+4)
- 賛助会員：法人14法人(0)
 個人49個人(+5)

教育研修委員会からの報告と討議

1. 多職種教育セミナー

1) 「教育担当者のためのホスピス緩和ケアセミナー」

開催報告

2008年10月25・26日、昭和大学病院(東京都品川区)にて開催し、43名の参加を得た。

これまでは、多職種を対象とする一般セミナーであったが、今回より、教育担当者を対象とし、教育法についても学びの場を持った。

参加者には、地域に戻ってセミナー等を開催する場合、ファシリテーターガイドを活用できるよう、協会のホームページを通して、使用申し込みができるシステムを作成した。

2) 今後の開催予定

2009年度は、①5月23日(土)～24日(日)、②10月24日(土)～25日(日)の2回、教育担当者対象のセミナーの開催を予定している。

本セミナー受講者が各支部で会員対象の教育を実践できるよう、各支部代表者を優先的に受け入れることを検討していく。また、内容的にもより専門性を目指したプログラムを検討していく。

2. 職種別教育

1) 緩和ケア病棟における看護師教育

2008年度中に現状調査を実施し、今後の取り組みを検討する。

2) ソーシャルワーカーの教育

2008年11月23日・24日、石川県金沢市にて、日本

ホスピス・緩和ケア研究振興財団の助成を受けて、「がん・緩和ケアのソーシャルワークスキルアップセミナー」を開催した。

今後は、MSWの教育ニーズを探り、教育プログラムを作成していく。

3. 緩和ケア病棟での医師研修依頼への対応

他団体からの医師研修依頼に対応するため、検討会を発足させた。メンバーは、高宮有介(昭和大学医学部) 林章敏(聖路加国際病院)、茅根義和(東芝病院)、三枝好幸(聖ヶ丘病院)、小穴正博(桜町病院)の5名で、これまでの検討内容は以下の通りである。研修対象者は専門医とし、研修項目としては、①チーム医療、②援助的コミュニケーション、③臨死期、死に逝く患者への対応、④症状緩和、⑤倫理的な諸問題、⑥家族のケア、その他、ホスピスマインドの教育が重要と考える。課題としては、①研修者の経済的な問題、②期間の問題、③指導医の認定の問題などがある。

評価委員会からの報告と討議

1. ホスピス緩和ケア評価指針自己評価

2008年11～12月、正会員であるホスピス緩和ケア病棟190施設を対象にした、インターネット利用による自己評価を実施している。各施設からの回答を集計・分析・評価し、2009年度年次大会にて会員へ報告できるよう作業を進めていく。

本調査は構造調査が中心で、ケアのプロセスについて評価することは難しい。この点については今後の検討課題と考えている。

2. 遺族調査

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の助成を受けて、2007年度に実施され、緩和ケアのアウトカム評価としてもある程度使えるのではないかと見通しが立ってきた。

今後、協会における施設評価として、自己評価と遺族調査をリンクさせる案を検討した。調査間隔等の問題からリンクは難しいが、施設評価の一環として、協会としても本遺族調査に参加していくが確認された。

3. 専門施設認定制度

協会が施設会員を中心に構成されていることから、ホスピス緩和ケアを提供する専門施設として、その適切性を評価し、認定する制度を実施する可能性について検討した。評価方法、認定作業、認定結果の取り扱い、経済的な問題など、さまざまな課題があり、継続審議事項とした。

在宅ホスピス緩和ケア評価基準検討会の活動

2008年4月、評価委員会のワーキンググループとして、本検討会が発足し、「在宅ホスピス緩和ケア基準」の作成作業を進めている。

基準作成にあたり、本協会会員の診療所における在宅緩和ケアの現状やケア基準に関する意見を伺う調査を2008年度中に実施する予定である。

調査結果と基準案を添付した報告書を2009年度の年次大会に提示できるよう作業を進めていく。

国際的な活動

1. APHN(アジア太平洋ホスピス緩和ケアネットワーク)

これまでシンガポールに事務局を置き、Dr. Rosalie Shaw が事務局長を務めていた。Dr. Shawの引退に伴い、会長を務めるDr. Young-Seon Hongが韓国代表ということで、事務所を韓国に移すこととなった。

今後、日本からの代表者として、当協会国際交流担当の恒藤理事を推薦し、代表者の会議への出席など必要な経費を予算化することが確認された。

APHNが2年毎に開催しているカンファレンスは、2009年9月24～27日、オーストラリア パースにて開催が予定されている。



The 8th Asia Pacific Hospice Conference

Website : <http://www.conlog.com.au/palliativecare2009/>

2) WWPCA (Worldwide Palliative Care Alliance)

世界のホスピス緩和ケア関連の団体で構成されており、各国の現状報告や課題への国際的な協力を通して、ホスピス緩和ケアの普及を目指している。協会としては、2005・2007年度に代表が会議に参加しており、今後も活動状況に応じて参加、協力していく。

支部活動報告

当協会では、会員同士の情報交換や交流の場として支部活動を進めています。各支部では、支部会の開催やニュースレターの発行などと共に、会員同士、また会員以外の方とも学習の場を共有しながら、地域における緩和ケアのネットワーク化とケアの質の向上を目指しています。2008年度の各支部の活動状況を報告します。

北海道支部

北海道支部 第6回年次大会の開催

日 時：2008年5月17日（土）
 会 場：北海道医療大学サテライトキャンパス
 ACU 日本生命ビル5階
 内 容：幹事会、講演会、シンポジウム、全体会
 テー マ：在宅緩和ケア推進のために、がん診療連携拠点病院はどのように変わるべきか
 —地域がん診療連携拠点病院における地域連携の現状と課題—

【講師】 的場元弘氏（国立がんセンター中央病院）

参加人数：191名



東北支部

第3回東北支部緩和ケア病棟分科会の開催

日 時：2008年5月31日（土）
 会 場：山形県立中央病院
 テー マ：地域に緩和ケアを根付かせるために
 内 容：交流セミナー、施設見学、全体討議等
 参加人数：39名

医学生・初期研修医のための緩和ケアセミナー

日 時：2008年8月2日（土）
 会 場：ハーネル仙台4階「青葉」
 テー マ：死生観について、緩和ケアの現状と未来、ホスピスマインドの再確認と医療者のあり方
 後期研修医の話
 内 容：講義、座談会、意見交換
 参加人数：19名



◀
 左：支部年次大会の様子（北海道支部）
 右：緩和ケア病棟分科会の様子（東北支部）

関東甲信越支部**1. 支部幹事会の開催**

日 時：2008年6月15日（日）
 会 場：東京国際フォーラム会議室
 テー マ：関東甲信越支部の各地域における緩和ケア
 ネットワークと教育の現状と今後の課題
 参加人数：12名

2. 支部幹事会の開催

日 時：2008年12月6日（土）
 会 場：東京国際フォーラム会議室
 参加人数：13名

3. 協会ウェブサイトへの各地域現状報告の掲載

- 1) 地域緩和ケアネットワークの現状
- 2) 緩和ケアに関する教育の現状
- 3) ネットワークと教育に関する今後の課題

以上3点について報告書を掲載。

アドレス <http://www.hpcj.org/aboutus/brch03.html>

東海北陸支部**1. 東海北陸支部総会・シンポジウム**

日 時：2009年1月10日
 会 場：名古屋・安保ホール
 テー マ：地域連携におけるホスピス・緩和ケア病棟
 の役割
 参加人数：46名

2. メーリングリストの開設**近畿支部****近畿支部会の開催**

日 時：2008年11月8日（土）13時～18時
 場 所：京都アスニー
 内 容：

- 1) 師長会 13時30分～14時30分
 「グループワーク(2グループ)」
 参加人数：14名
- 2) 講 演 15時～16時
 「日本の心と緩和ケア-西洋の文化・日本の文化-」
 【講師】奈倉道隆氏(四天王寺大学)
- 3) 分科会 16時10分～17時10分
 - A 「症状コントロール」
 - B 「家族ケア」
 - C 「心と魂のケア」
 - D 「在宅ホスピスについて」
 参加人数：会員51名

**中国支部****1. 支部代表者会議・看護師長会・チームケア部会の開催**

日 時：2008年4月19日（土）
 場 所：放送大学 広島学習センター
 内 容：情報交換・グループディスカッション等
 参加人数：87名

2. 学術講演・教育講演・事例検討

日 時：2008年4月19日（土）・20日（日）
 場 所：放送大学 広島学習センター
 参加人数：会員104名、非会員11名
 内 容：
 学術講演「緩和ケアに欠かせない精神的ケアの基本技術～せん妄・不眠・うつへの効果的な対処法～」
 【講師】佐伯俊成氏（広島大学病院）
 教育講演「痛みのメカニズムと疼痛緩和」
 【講師】川井康嗣氏（山口大学医学部）
 事例検討1／国立病院機構 呉医療センターより
 事例検討2／国立病院機構 山陽病院より

四国支部**1. 四国支部総会及び勉強会の開催**

日 時：2008年8月31日（日）
 会 場：徳島市医師会館
 参加人数：協会会員32名、非会員51名
 内 容：
 地域緩和ケアネットワーク「長崎の地域医療活動状況紹介」
 【講師】白髭 豊氏（医療法人 白髭内科医院）

2. ホスピス講演会の後援

日 時：2008年10月11日（土）
 会 場：松山教会
 講 師：アルフォンス・デーケン氏

九州支部**1. 九州支部大会の開催**

日 時：2008年5月31日（土）
 場 所：アクロス福岡
 テー マ：緩和ケア病棟の課題と展望
 内 容：
 1) 基調講演「緩和ケア病棟のあり方を考える」
 【講師】末永和之氏（山口赤十字病院）
 【司会】下稲葉康之氏（栄光病院）

2) 教育講演

a. 症状コントロール

【講師】末永和之氏(山口赤十字病院)

b. 家族への援助～医療不信を抱える家族のケア～

【講師】益富美津代氏((宗)聖フランシスコ病院)

c. チームアプローチ～よりよいカンファレンスをもつために～

【講師】松元和代氏(医療法人倫生会三州病院)
後藤隆子氏((医)明和会大分ゆふみ病院)

3) 施設代表者会

4) 職種別分科会(医師部会・看護部会・ソーシャルワーカー部会・パストラルケアワーカー部会)

5) 全体会

参加人数：52施設248名

2. 九州支部幹事会の開催

日 程：2008年11月22日(土)

場 所：栄光病院 2F大会議室

内 容：

九州支部活動の運営に関する協議

- ・九州支部の現状報告
- ・2008年度支部活動報告
- ・日本緩和医療学会の「専門認定医制度」について
- ・2009年度支部活動計画案 他

参加人数：支部幹事9名

3. 九州支部ニューズレターの発行

Vol.6号(2008年度支部大会総括)800部

2008年12月発行

2009年度 協会スケジュール

4月	24日	評価委員会 在宅ホスピス緩和ケア評価基準検討会
5月	23・24日	多職種教育セミナー
7月	17日 18・19日	理事会 総会・年次大会
10月	上旬 4～10日 24・25日	協会ニュース発行 ホスピス緩和ケア週間 多職種教育セミナー
12月	4日	教育研修委員会 評価委員会
	5日	理事会
2月	上旬	ニューズレター発行

※各支部の活動は、支部事務局から会員へ案内する他、協会ホームページにも掲載予定。

事務局より

協会では毎年4月に全国のホスピス緩和ケア病棟および緩和ケアチーム数把握のための調査を行っておりますが、もし緩和ケア病棟・チームが新たに開設されたなどの情報をお持ちでしたら、事務局までお寄せ下さいますようお願い申し上げます。



当協会では、協会の事業に賛同し、応援して下さる個人・団体からのご寄付を受け付けており、2008年度は11件総額1,525,000円(2009年2月1日現在)のご寄付をいただきました。

寄

付

報

告

ご寄付いただいた方々

田中 巖様(東京都)
八木達郎様(東京都)
他匿名希望 9名

ご寄付について

協会では、寄付のご案内パンフレットを配布しております。パンフレットを置いていただける施設がございましたら郵送いたしますので、事務局までご連絡下さい。

寄付をお寄せいただいた方の声(一部抜粋)

- ・全国のホスピス緩和ケアの提供に関する現状調査とともに、遺族による生きた評価を着実にを行い、改善に繋げてほしいです。
- ・本人の気持ちを尊重しまして、気持ちだけですが寄付させていただきます。緩和ケア病棟も増えて欲しい。優秀な看護師さんも育成してもらいたいと考えながら役立てて頂きたいです。
- ・母自身は病院での手厚いケアに感謝しながら亡くなりましたが、死を待つだけの日々を病院のベッドではなく、もっと生活に近い環境で過ごさせたかったという思いから、貴協会の活動に期待します。

